

## 障害科学類

College of Disability Sciences

- 学士（障害科学）
- Bachelor of Arts in Disability Sciences
- 学士（特別支援教育学）
- Bachelor of Arts in Special Education
- 学士（社会福祉学）
- Bachelor of Science in Social Work

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的にかつ実践的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に活躍し先導的に発信できる能力をもつ人材を養成します。

<b>養成する人材像</b>	<p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探究心を身につけ、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的問題解決能力をもつ人材の育成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 障害と社会に関する基礎的研究力のある人材</li> <li>- 障害のある人々へのサポートスキルのある人材</li> <li>- 教育と研究の成果を国内外に発信できる人材</li> <li>- 人類と社会に貢献できる人材</li> </ul>
<b>卒業後の進路</b>	<p>企業（サービス、金融・保険、情報・通信、流通、運輸などの業種）・団体（障害者職業センターなどの福祉分野）、教員（各地の小・中学校、高等学校、特別支援教育学校）・公務員（中央省庁・外局・地方自治体などの官公庁）など国内外での幅広い活躍が想定されます。</p> <p>4割以上の学生が、障害科学類の上位となる大学院（「障害科学学位プログラム」）に進学することを期待しています。</p>

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（障害科学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 障害科学コンピテンス 1	教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、障害科学の基礎知識を理解する能力
	2. 障害科学コンピテンス 2	障害領域別の生理病理、障害児者の心理、教育、社会福祉など、各種障害関連分野を理解し、それらの知識を体系化して整理する能力
	3. 障害科学コンピテンス 3	障害科学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力
	4. 障害科学コンピテンス 4	障害科学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力
	5. 障害科学コンピテンス 5	障害科学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語）
学修成果の評価に関する方針	<p>4年間の学修成果の集大成として卒業研究を重視し、構想発表・中間発表、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与方針に基づく学修成果を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 卒業論文は、指導教員以外の障害科学類担当教員2名による査読を通じて評価し、学修成果の達成状況に反映します。</li> <li>- 三回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を複数の教員で評価します。</li> <li>- これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。</li> </ul>	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

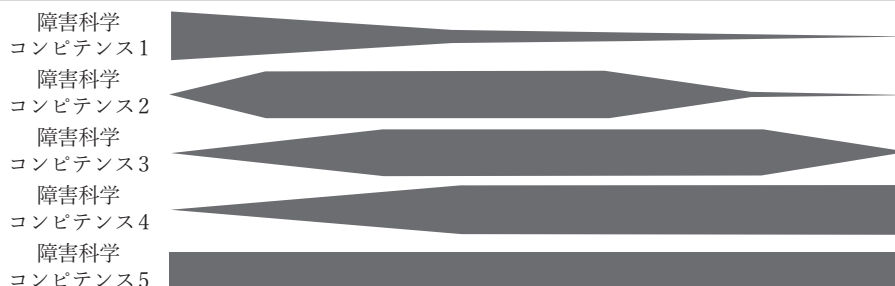
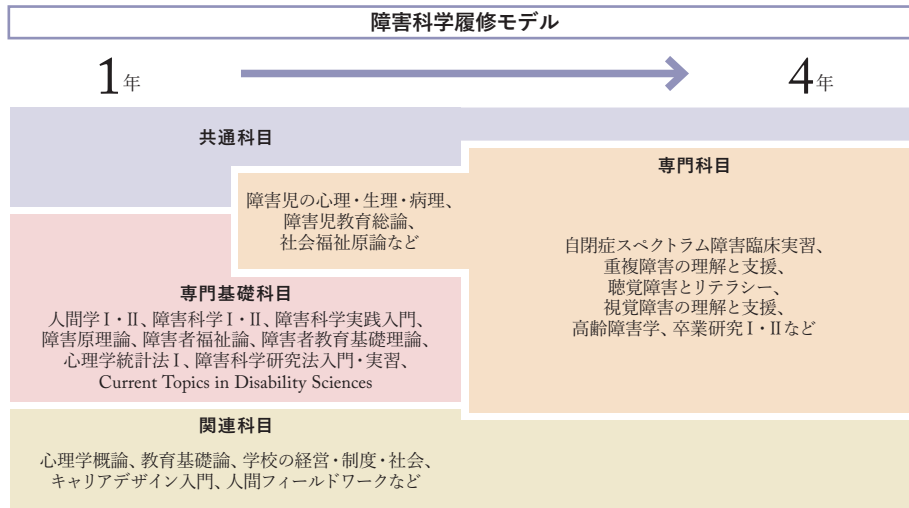
学士（障害科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p><b>総合的な方針</b></p> <p>学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身につける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p><b>順次性に関する方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える</li> </ul> <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。これにより、障害科学C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える</li> </ul> <p>障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得</li> </ul> <p>障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンズ（障害科学C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p><b>実施に関する方針</b></p> <p>障害科学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要なとされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p>
-----------------------	---

学修の方法  
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学 C1 の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論 I・II」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学 C1 の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「知識の体系化・整理」を目指します。これにより、障害科学 C2 の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学 C3 の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学 C4 の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学 C5 の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身につけます。これにより、障害科学 C5 の修得を目指します。

障害科学履修モデル



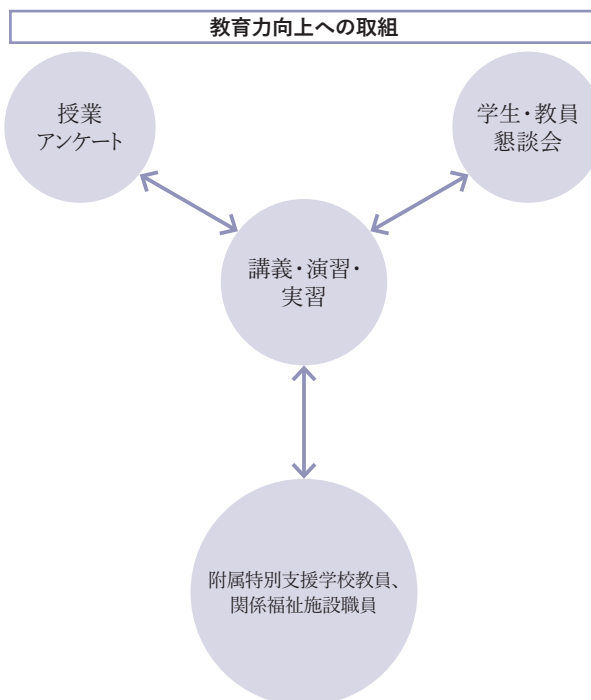
入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p>	
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<p>個別学力検査等前期日程</p>	<p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。</p>
	<p>個別学力検査等後期日程</p>	<p>広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。</p>
	<p>推薦入試</p>	<p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p>
	<p>国際バカロレア特別入試</p>	<p>障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p>
	<p>外国学校経験者特別入試</p>	<p>第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。</li> <li>- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。</li> <li>- 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。</li> </ul>
--------------------	--

<p><b>学生同士の 交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。</li> <li>- 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。</li> </ul>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。</li> <li>- 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。</li> <li>- 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。</li> <li>- オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。</li> </ul>



### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 1	教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、特別支援教育の基礎知識を理解する能力
	2. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 2	障害領域別の生理病理、障害児者の心理、教育など、各種障害関連分野を理解し、それらの知識を体系化して整理する能力
	3. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 3	特別支援教育学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力
	4. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 4	特別支援教育学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力
	5. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 5	特別支援教育学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語）
学修成果の評価に関する方針	4年間の学修成果の集大成として卒業研究（「卒業研究Ⅱ」）を重視し、卒業論文およびその公开发表を通じて、学位授与の方針に基づく学修成果の到達度を総合的に評価します。卒業論文は指導教員と副指導教員が論文の指導と審査を行います。学際的領域としての障害科学の基礎知識を有しているか、障害科学の全体的な理念・概念ならびに障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識や技能を有しているか、これらの一般的・専門的内容に批判的・創造的に研究疑問が投げかけられているか、自律的に研究が進められているか、適切に専門家等との協働が図られているか、障害科学に係る様々な事象が適切に解析・処理されているか、倫理的観点から適切にデータが処理されているか、等の観点から評価します。公开发表会では口頭での概要説明及び質疑応答を行います。プレゼンテーションを通して適切に研究概要を説明できるコミュニケーション能力があること、研究の学術的・社会的意義を先導的に発信できる言語力を有していること、自身の専門分野に対して広い視座から障害科学を理解する力を有していること、等の観点から評価します。	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

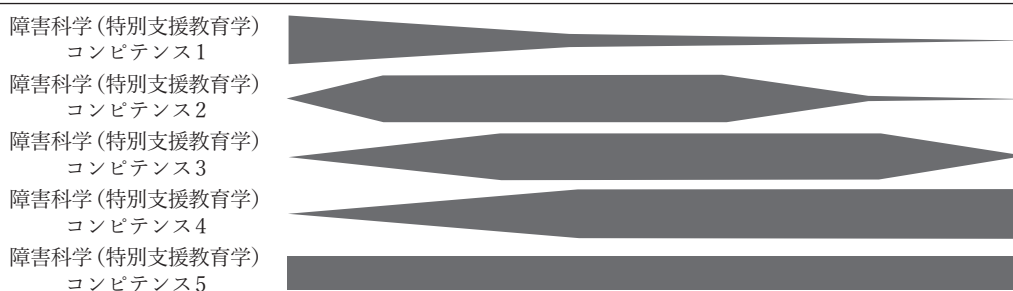
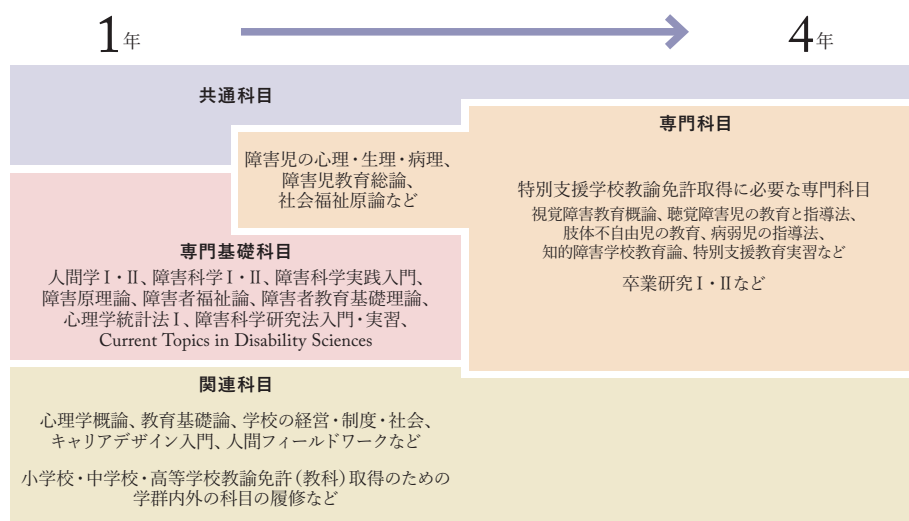
学士（特別支援教育学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p><b>教育課程の 編成方針</b></p>	<p><b>総合的な方針</b></p> <p>特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指す「特別支援教育学履修モデル」を設定しています。特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、広い教養と深い専門性を身につけます。5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の全てを担当できる特別支援学校教諭免許状を取得することもできます。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p><b>順次性に関する方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える</li> </ul> <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により社会福祉学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して社会福祉学の基礎を理解します。これにより、障害科学C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える</li> </ul> <p>社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目を中心に「社会福祉原論」、「医学概論」、「高齢者福祉論」等で専門基礎を、「相談援助の理論と方法」、「相談援助の基盤と専門職」で基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」、「社会福祉調査論」では研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じ、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 3～4年次…研究・実践技術の修得</li> </ul> <p>「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学びます。「ソーシャルワーク実習」等において基礎的実践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害福祉学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンス（障害科学C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p><b>実施に関する方針</b></p> <p>社会福祉学履修モデルに基づき、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。授業は参加型の形態をとる一方、福祉施設などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p>
------------------------------	--

学修の方法  
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では様々な障害種の特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C1の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学C1の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「障害科学における実践力」を身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C2の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学（特別支援教育学）C3の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C4の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C5の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身に着けます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C5の修得を目指します。

特別支援教育学履修モデル



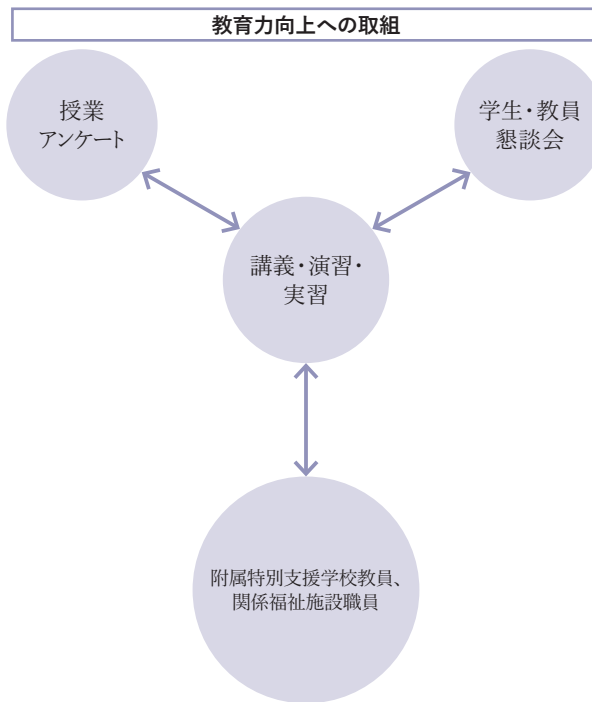
### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p>	
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<p>個別学力検査等前期日程</p>	<p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。</p>
	<p>個別学力検査等後期日程</p>	<p>広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。</p>
	<p>推薦入試</p>	<p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p>
	<p>国際バカロレア特別入試</p>	<p>障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p>
	<p>外国学校経験者特別入試</p>	<p>第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p>

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。</li> <li>- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。</li> <li>- 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。</li> </ul>
--------------------	--

<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。</li> <li>- 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。</li> </ul>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。</li> <li>- 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。</li> <li>- 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。</li> <li>- オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。</li> </ul>



### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 1	教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、社会福祉学の基礎知識を理解する能力
	2. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 2	社会福祉を理解し、その知識を体系化して整理する能力
	3. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 3	社会福祉学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力
	4. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 4	社会福祉学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力
	5. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 5	社会福祉学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語）
学修成果の評価に関する方針	4年間の学修成果の集大成として卒業研究（「卒業研究Ⅱ」）を重視し、卒業論文およびその公开发表を通じて、学位授与の方針に基づく学修成果の到達度を総合的に評価します。卒業論文は指導教員と副指導教員が論文の指導と審査を行います。学際的領域としての障害科学の基礎知識を有しているか、障害科学の全体的な理念・概念ならびに障害心理・生理、福祉についての基礎的知識や技能を有しているか、これらの一般的・専門的内容に批判的・創造的に研究疑問が投げかけられているか、自律的に研究が進められているか、適切に専門家等との協働が図られているか、障害科学に係る様々な事象が適切に解析・処理されているか、倫理的観点から適切にデータが処理されているか、等の観点から評価します。公开发表会では口頭での概要説明及び質疑応答を行います。プレゼンテーションを通して適切に研究概要を説明できるコミュニケーション能力があること、研究の学術的・社会的意義を先導的に発信できる言語力を有していること、自身の専門分野に対して広い視座から障害科学を理解する力を有していること、等の観点から評価します。	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

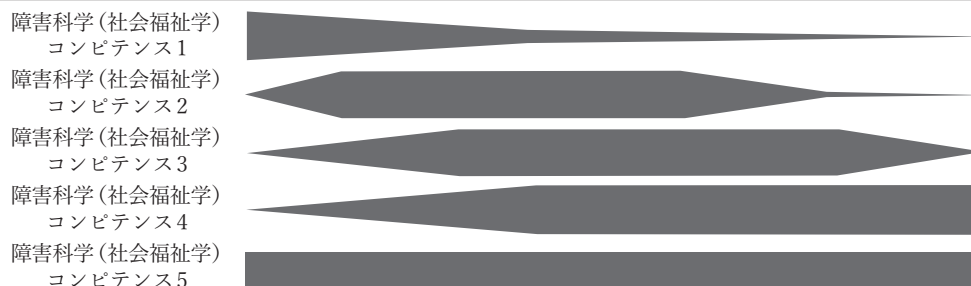
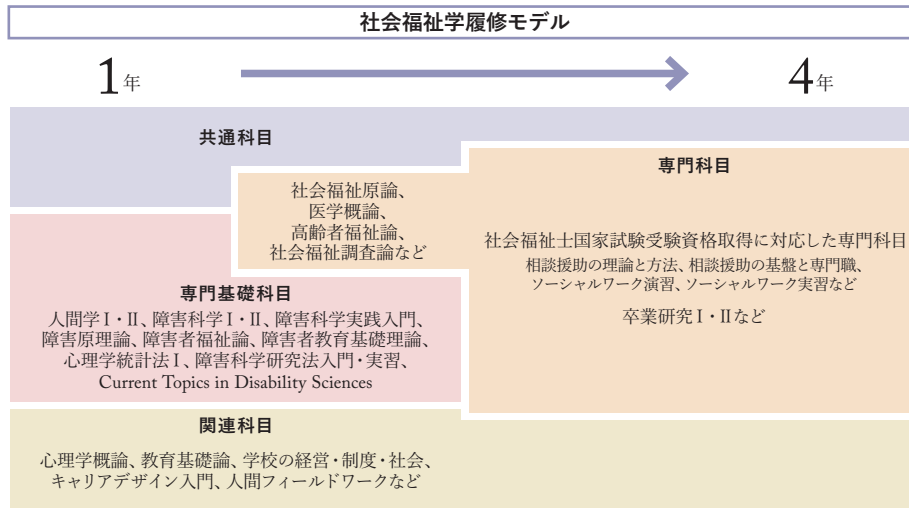
学士（社会福祉学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p><b>総合的な方針</b></p> <p>社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて共生社会を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、実習を含めて融合的に学修します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、質的及び量的調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p><b>順次性に関する方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える</li> </ul> <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。これにより、障害科学（社会福祉学）C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える</li> </ul> <p>障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学（社会福祉学）C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得</li> </ul> <p>障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンズ（障害科学（社会福祉学）C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p><b>実施に関する方針</b></p> <p>社会福祉学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要なとされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p>
-----------------------	--

学修の方法  
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では様々な障害種の特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学（社会福祉学）C1の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学（社会福祉学）C1の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「障害科学における実践力」を身につけます。これにより、障害科学（社会福祉学）C2の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学（社会福祉学）C3の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学（社会福祉）C4の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学（社会福祉学）C5の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身に着けます。これにより、障害科学（社会福祉学）C5の修得を目指します。

社会福祉学履修モデル



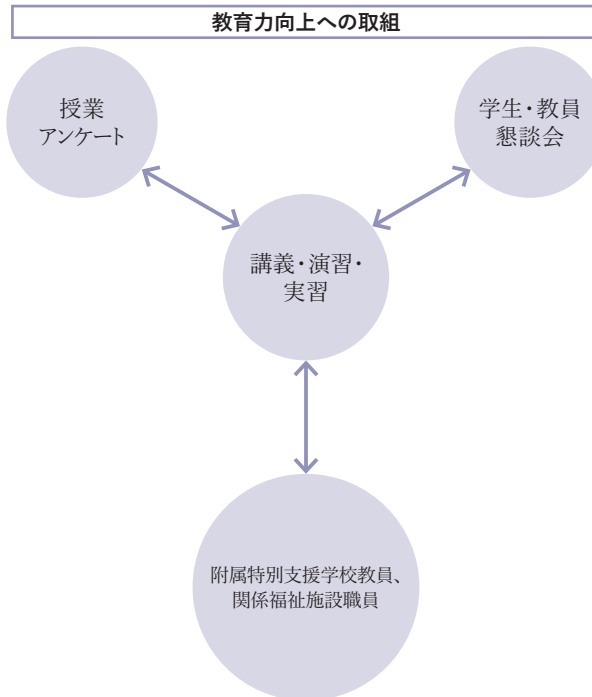
入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p>	
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<p>個別学力検査等前期日程</p>	<p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。</p>
	<p>個別学力検査等後期日程</p>	<p>広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。</p>
	<p>推薦入試</p>	<p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p>
	<p>国際バカロレア特別入試</p>	<p>障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p>
	<p>外国学校経験者特別入試</p>	<p>第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。</li> <li>- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。</li> <li>- 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。</li> </ul>
--------------------	--

<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。</li> <li>- 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。</li> </ul>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。</li> <li>- 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。</li> <li>- 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。</li> <li>- オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。</li> </ul>



### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。